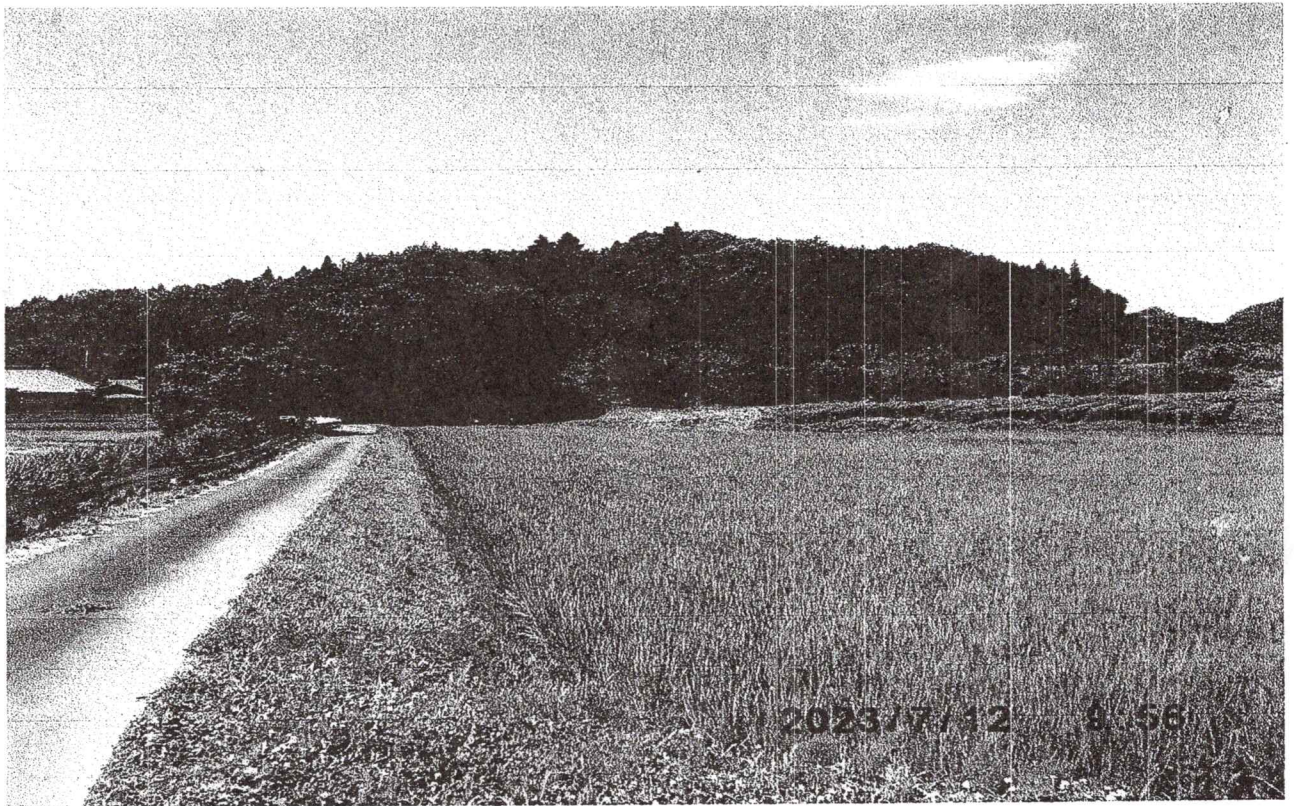


令和5年度

第2回ふるさと常陸太田の歴史散歩

『染和田の里めぐり』



「曾目城址」

主 催：常陸太田市教育委員会生涯学習センター

共 催：常陸太田まちかど案内人の会

目 次

・はじめに

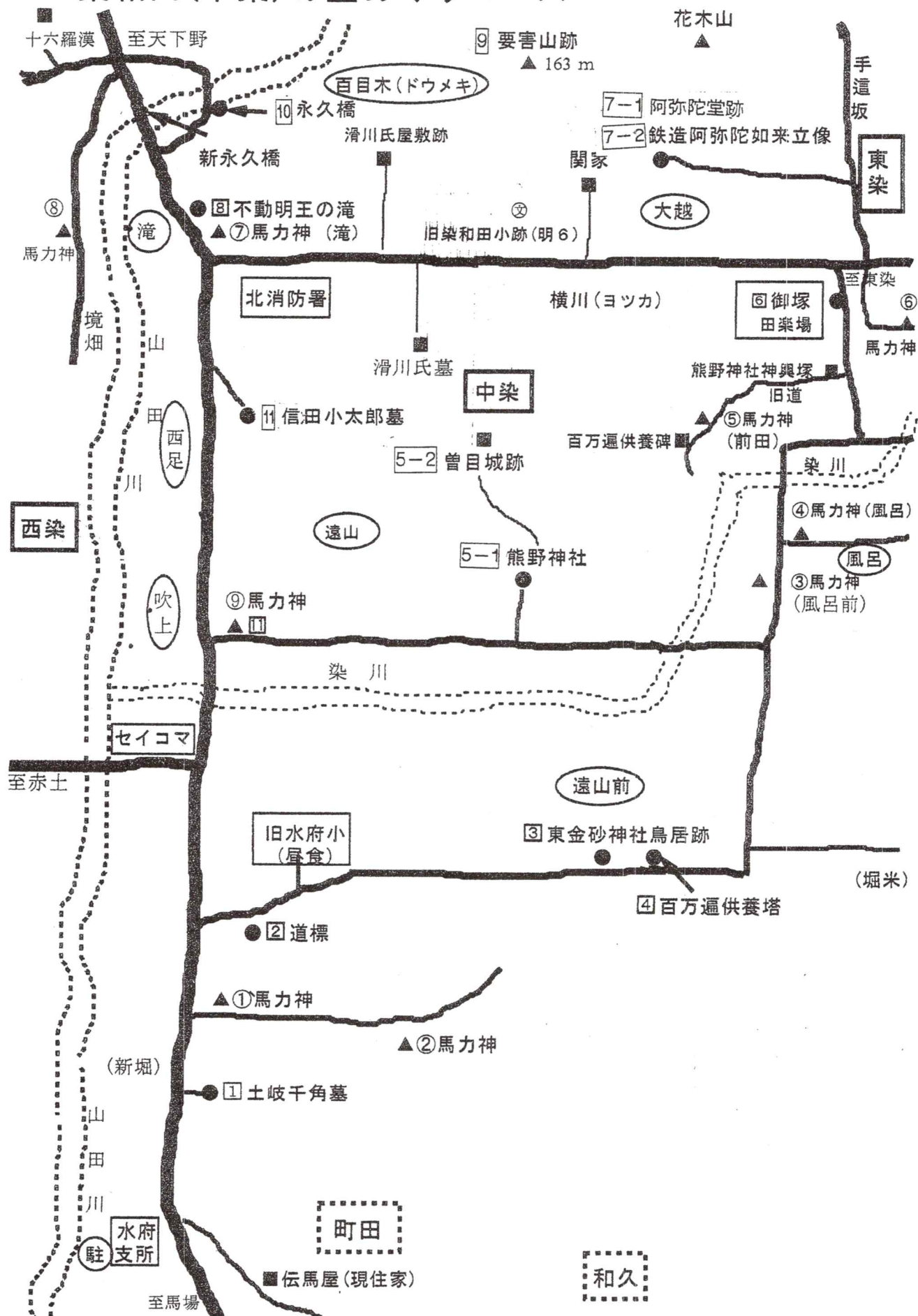
・染和田（中染）の里巡りコース

・旧水府村の地図「水府村全図」

1, 土岐千角の墓（町田町）	1
2, 道標（従是・左：東金砂山・右：西金砂山）（中染町）	2
3, 旧東金砂神社二の鳥居の跡（礎石）（中染町・遠山南）	3
4, 百万遍供養塔（碑）と石仏、軍馬供養碑（中染町・遠山南）	4
5-①, 熊野神社（中染町・遠山）	5～6
5-②, 曾目城（中染町・遠山）	7～8
6, 中染地区祭場跡・仮御殿（中染町・横川）	9
7-①, 阿弥陀院跡（中染町・横川）	10
7-②, 鉄造阿弥陀如来立像（中染町・横川）	11～12
8, 不動明王の滝（中染町・滝平）	13
9, 中染 要害（中染町・釜の上）	〃
10, 永久橋＜七度半＞（中染町・天下野町）	14～15
11, 信田小太郎の墓（中染町・西足 ^{にしたり} ）	16
12, 馬力神（中染地区）	17

以上

染和田(中染)の里めぐりコース



は じ め に

旧水府村の前身の染和田村は、古くから常陸國久慈郡に属して薩都莊流山郷に隷属していた。

東染、中染、西染の3村は、往古において曾目村と称して大村であったが、貞享2年（1685）に東染、中染、西染の3村に分割し「曾目」を「染」に改めた。町田（村）、和久（村）についての沿革は不詳。

明治5年 区副コ戸長制が布かれ3村は同じ小村の中にあった。

同17年に区域改正によって合併して一行政区になった。

同22年の町村制施行にともなって染和田村と改称された。

その後、同村は水府村となり、さらに平成16年常陸太田市へ合併された。

（※）染和田村の名称は、上記3村染村、和久村、町田村の頭文字をとって付けられた。

（参考） 住民基本台帳人口世帯数

		平成16年12月1日 (合併時)		令和5年6月1日 (現在)	
		人口(人)	世帯数	人口(人)	世帯数
常陸太田市	男	30, 823	20, 707	23, 503	21, 107
	女	31, 932		24, 255	
	計	62, 755		47, 758	
旧水府村	男	6, 075	2, 085	1, 972	1, 842
	女	3, 182		1, 931	
	計	6, 257		3, 903	
中染町	男	325	222	215	192
	女	328		188	
	計	653		403	

水府村全圖

東染

日立市

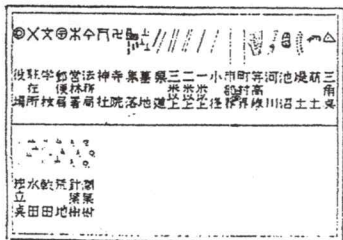
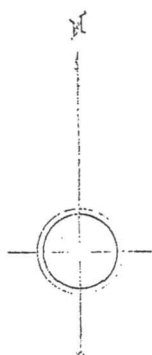
中 染

五 五

一和久

山田村

水府村役場



凡 例

五 月 分 之 一 只

1988	529	0	1328	2073	5000	4088
------	-----	---	------	------	------	------

常德市 鳳凰街 黃興出版社 印

1, 土岐千角の墓 (町田町)

千角は、元禄15年(1702)の生まれで名を頼辨といい、元笠間の藩士であったが、故あって和久に流浪し、木梨仁左衛門の家に身を寄せて世話になり、やがて町田の鹿島山の下に住居を定めて移り住み医業を営んだ。

元文4年(1739)春の事である。西金砂神社の小祭礼を拝観しようと諸方の部落から装いをこらした老若男女が雲のように集まってきた。

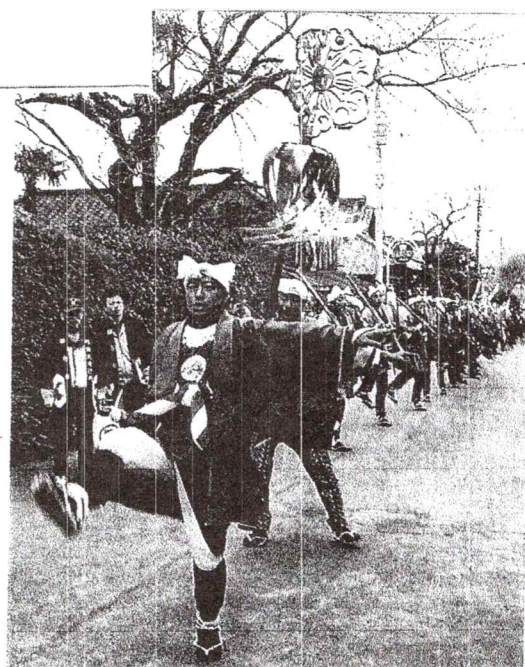
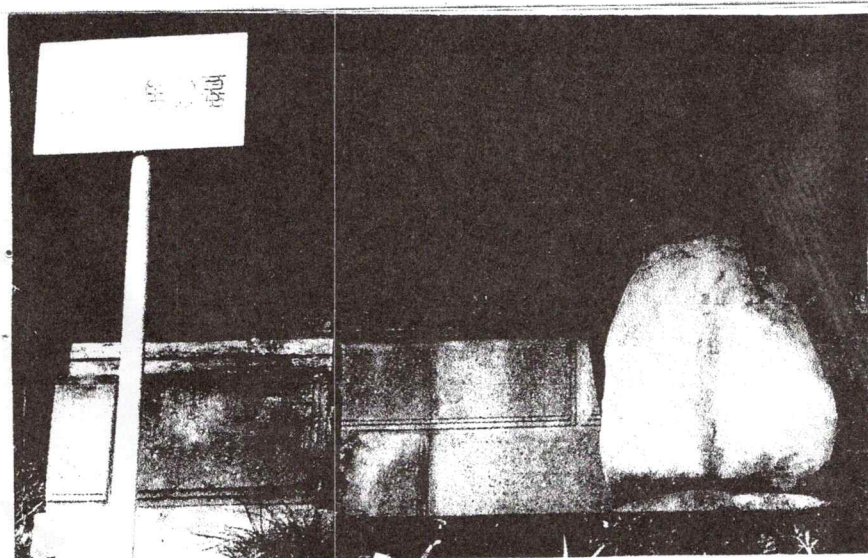
この時、不幸にも留守宅2ヶ所から火災が発生し観衆は大混乱に陥ってしまった。これを見た町田の医師土岐千角は、深く悲しみを憂い神輿の行列に火消組を参加させる必要を痛感した。

そこで千角は、関係各村の有志の間を奔走し祭りに奉仕するには、消火・防災の備えが無ければならない事を力説してその実現を計った。

千角は、かつて医術修行の為長崎に遊学し、その帰途たまたま江戸の神田明神の祭礼にあい火消組が神輿を供奉してその威儀整然とした壮観さに感銘したのである。

千角は、今その組織形容を範とし、それに自己の独創を加味して町田の火消行列を案出したのである。千角は、安永2年(1773)10月24日72歳で病死し新堀前東山のふもとに葬られた。役場跡近くには、土岐夫人の墓がある。

千角の指導によって、町田火消行列がはじめて小祭礼の神輿の^{とぎよせんく}渡御前駆として供奉したのは、延享2年(1745)の春である。平成16年第197回西金砂小祭礼には、町田火消行列は40回を数えている。

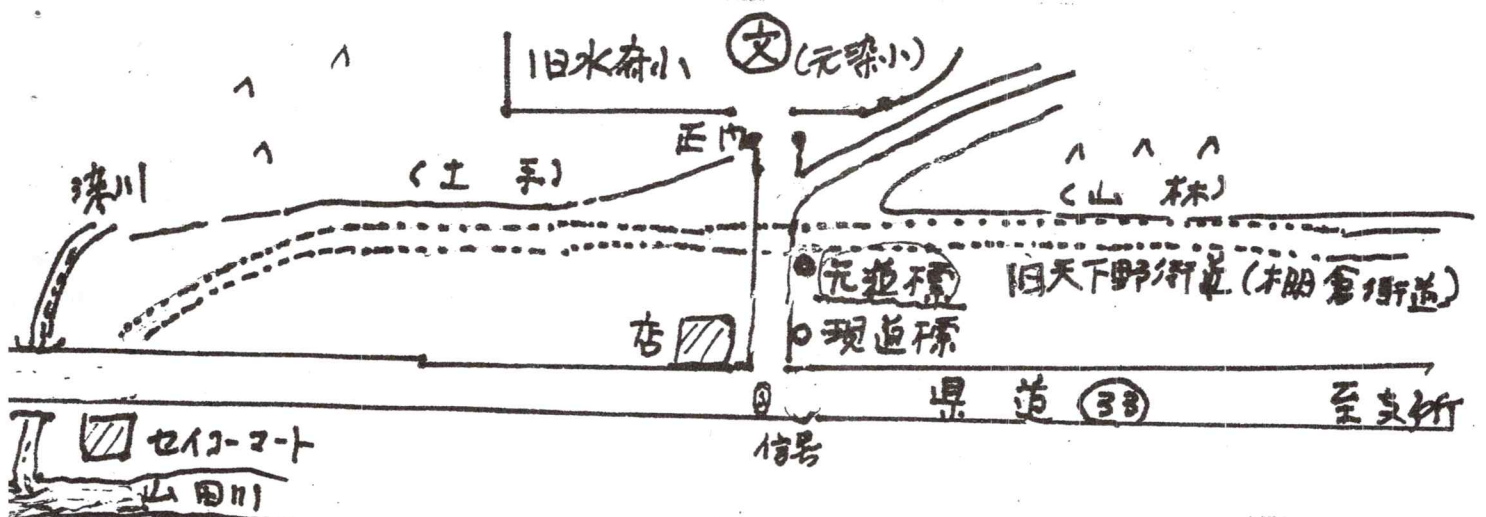
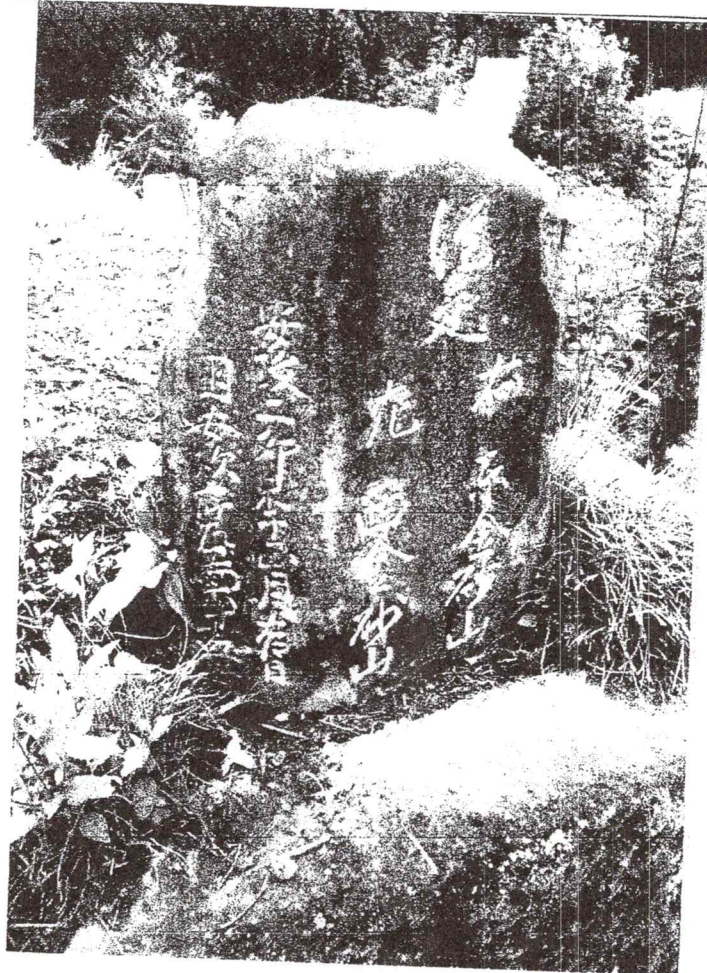


伝統の町田火消行列。

2. 道標 (従是 左:西金砂山 ・ 右:東金砂山) (中染町)

旧棚倉街道 (通称天下野街道 県道33号) で、旧水府小学校入口途中付近に東金砂神社と西金砂神社の道しるべとして、建立された道標がある。当時の両神社への参拝者のための案内石と思われる。

(側面には、安政2年(1855)正月吉日 国安次郎左衛門60余老建と彫られている)

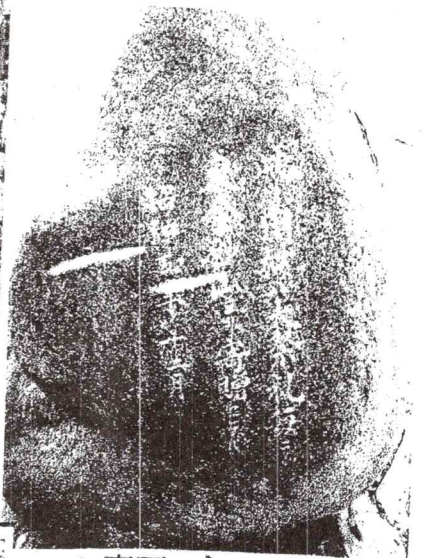
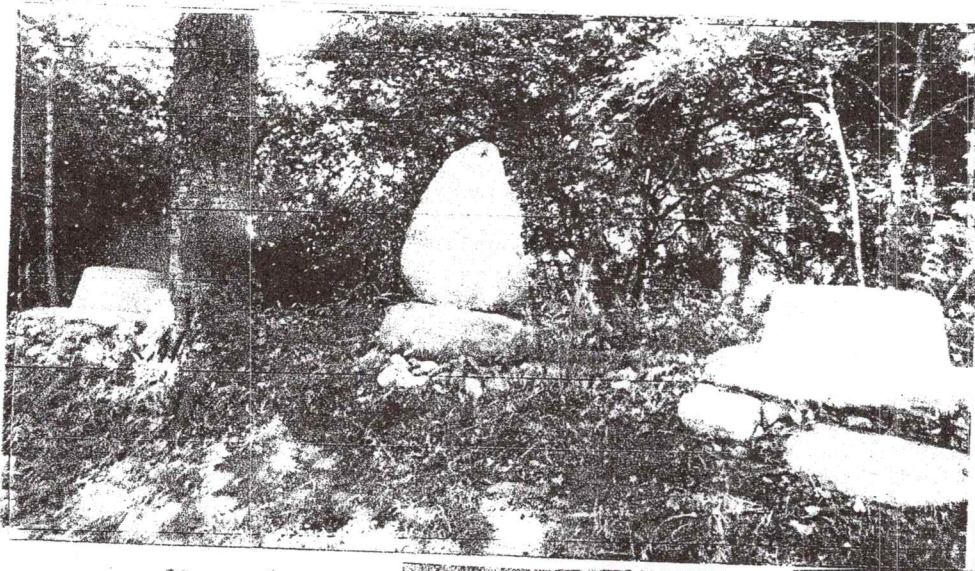


3. 旧東金砂神社二の鳥居の跡（礎石） （中染町・遠山南）

この鳥居は、昭和6年(1931)の第16回大祭礼の東金砂神社神輿渡御の際、この旧道の鳥居を通ったことが「鳥居改築記念碑」からも、また裏面の『此ノ用材ハ大祭礼毎二東金砂山ヨリ寄贈サレル 昭和5年12月』とあることから明らかである。

近年では、西金砂神社と東金砂神社の第17回磯出大祭礼が平成27年(2003)3月25日に執行されたこと。(今回からは県道33号を通った)

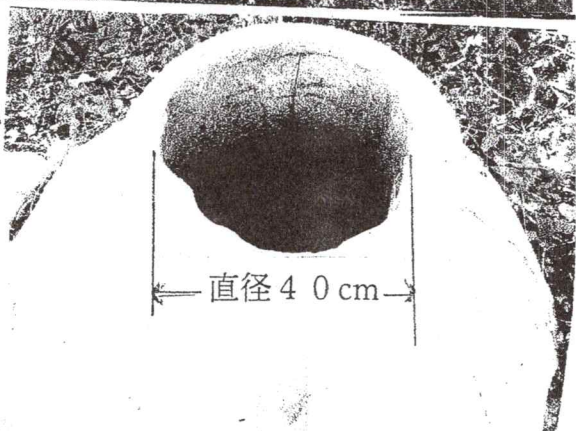
嘉祥4年(851)から始まり72年に1度開催される全国でも珍しい祭礼である。



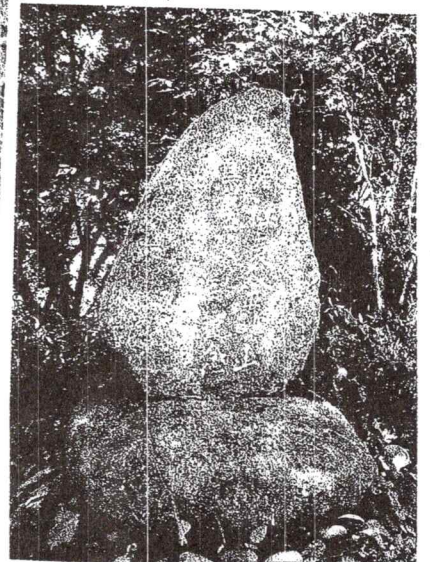
〔裏面〕



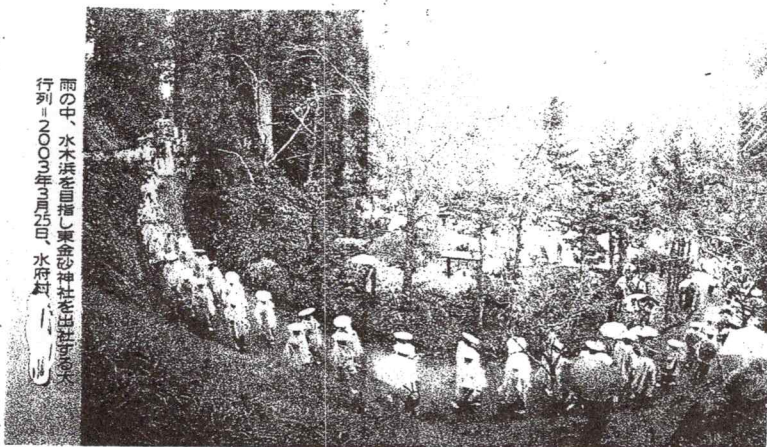
第17回 大祭礼・東染を経て 中染祭場へと向う
(一の鳥居)



直径40cm



郷社・東金砂神社鳥居改築記念
(表面)



雨の中、水木浜を目標し東金砂神社を出発する行列
2003年3月25日 水府町

4. 百万遍供養（碑）と石仏、軍馬供養（碑） （中染町・遠山南）

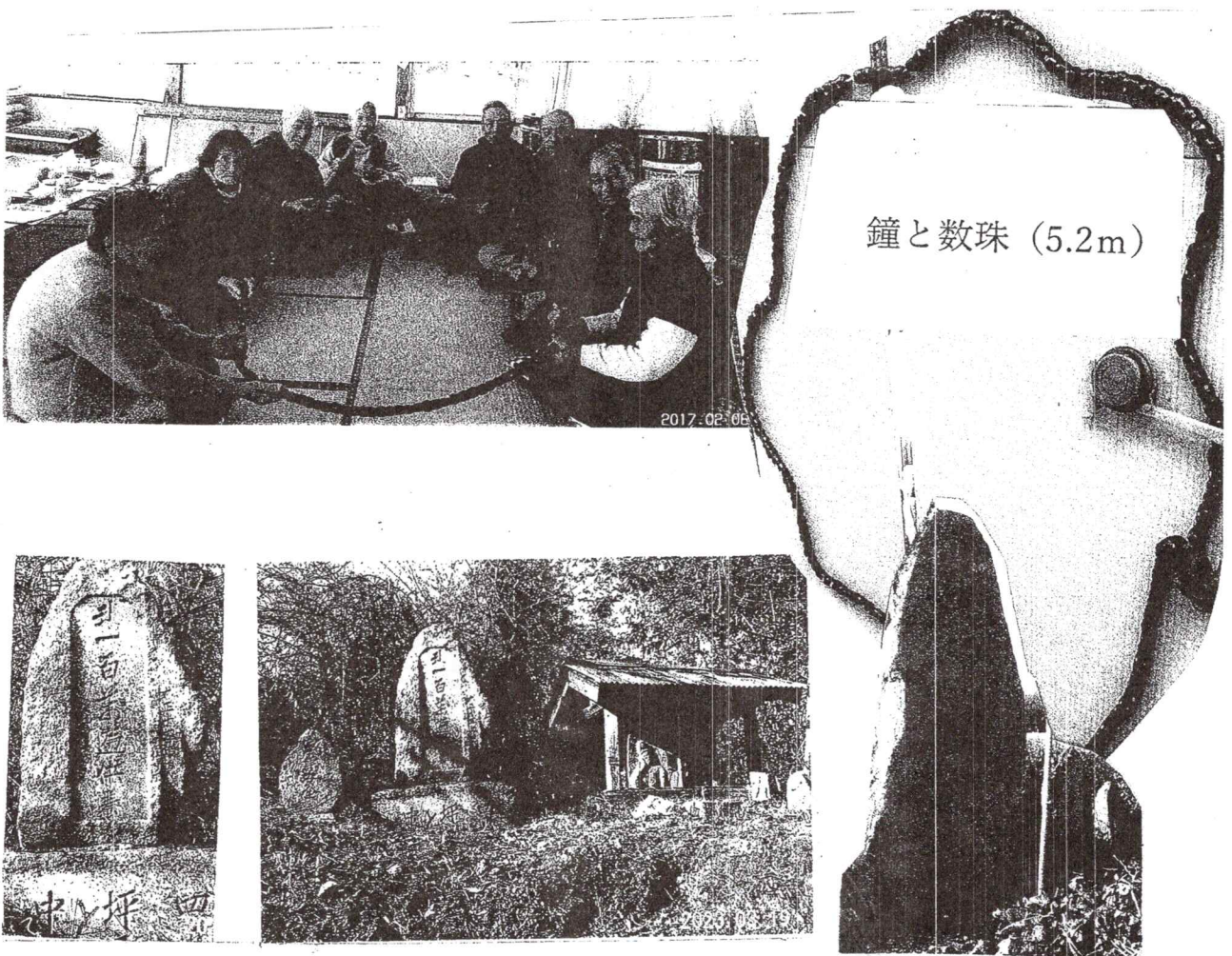
百万遍供養とは、人々が円陣を組んで座り、大きな数珠玉を送りながら、念仏を百万遍唱えて疫病退散などを祈る百万遍念仏講のこと。

当地区では、主として老人会員の方々が集まり数珠（203ヶ）を回しながら「なんまいだー、ナンマイダー」（南無阿弥陀仏が訛った）を唱えながら、大きな数珠玉がきたら鐘を鳴らして、一区切り、再度繰り返す（7回ほど）

毎年、2月8日（針供養）を習わしとしている。（地元では通称「数珠繰り講」と言っている）

※（1）石仏（如意輪観音・地藏菩薩）

（2）軍馬安全碑（昭和17年旧9月建立）・・・当時日米開戦時に軍馬として国に供出



四坪中・・・遠山、風呂、万城地、宝団の
4つの講中を云う

同じ百万遍供養
碑「前田」地区

5-①、熊野神社 (中染町・遠山)

①熊野神社の由来については、不詳(水府村史)

祭神 こととけのみこと 事解男命 はやたまのみこと 速玉男命 いざなみのみこと 伊弉冉命

②一説には、元禄元年(1668)3月15日創建、明治6年(1773)4月1日村社に列格。例祭には、7年目(小祭礼の年)ごとに氏子3地区内の御旅所へ御輿の御出社がある。

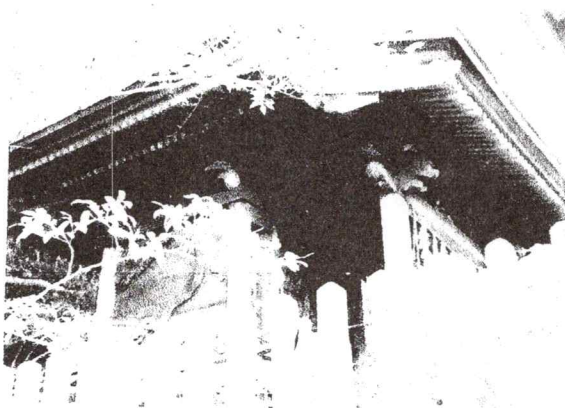
氏子崇敬者は、家内安全・無病息災・商売繁盛などを祈願し、御賽銭をあげ祭日を盛大に盛り上げて終わる。

近年では、平成27年(2015)4月12日に執り行われた。

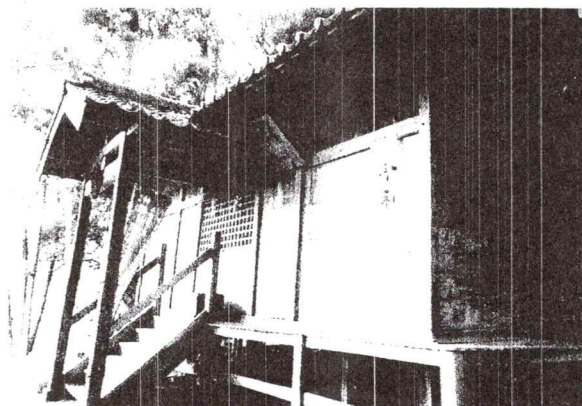
各地区に神輿のお休み場所(塚)がある。(水府歴史散歩)

本来だと今年4月に実施される予定であったがコロナ禍で中止になった。両金砂神社小祭礼も中止となり「居祭り」に代えて執り行われた。

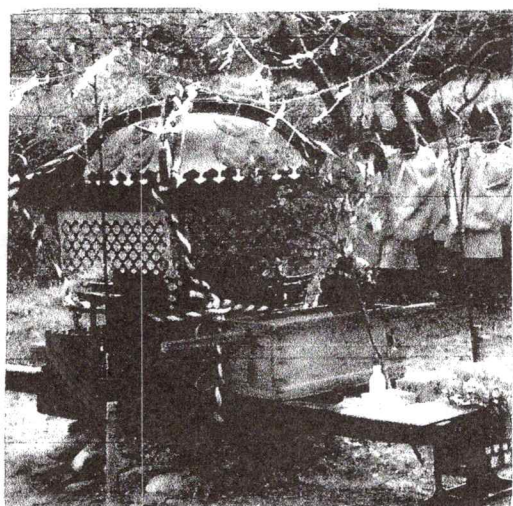
③(他説)上記創建説の他に、熊野神社は、佐竹藩時代に曾目城との絡みで既に創建されていた。



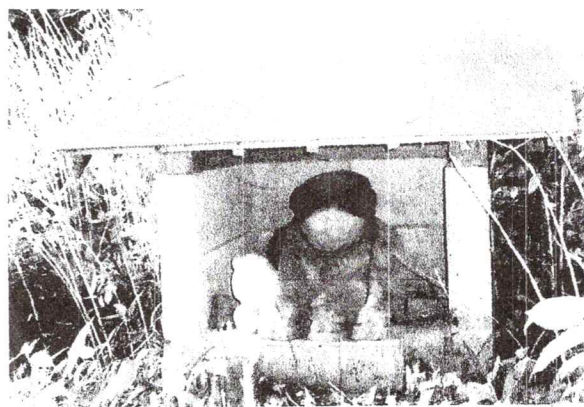
奥の院



拝殿



御輿



「鳥居側のお地藏さん」

昔盆の16日夜、地藏講と称して河原に舞台をかけ、芸人を呼んで「夜祭」で賑わった

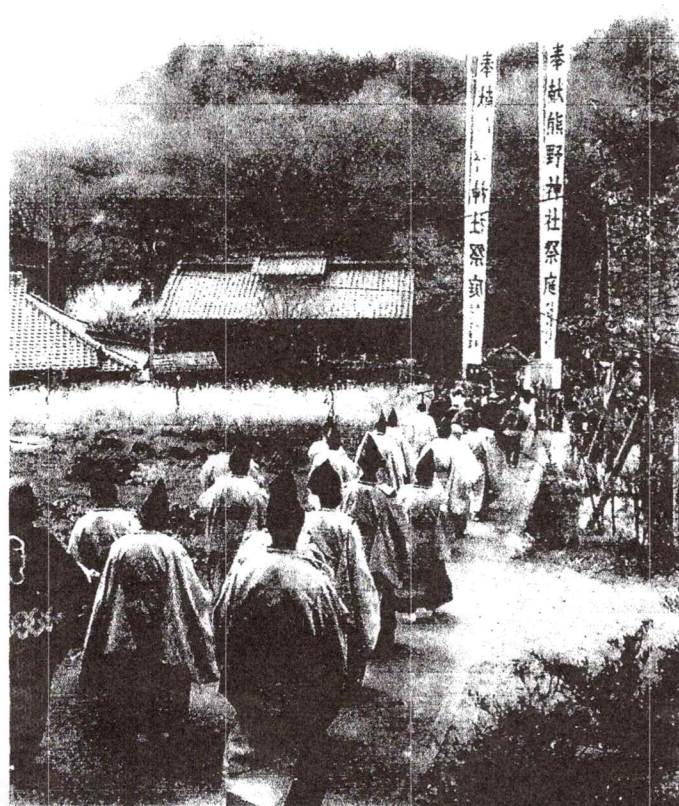
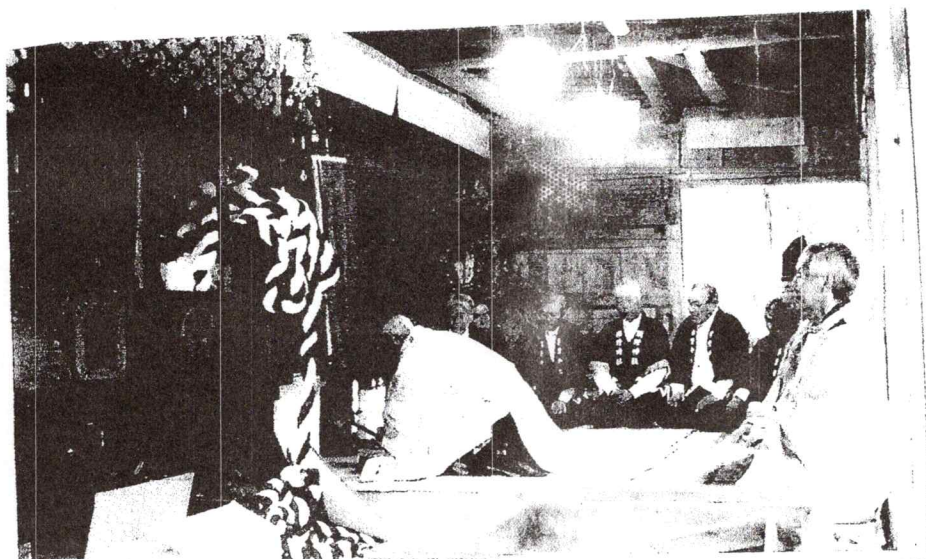
参考文献：・水府村史 ・水府歴史散歩 ・茨城城郭研究会発行、佐竹氏関連の城館

熊野神社例祭

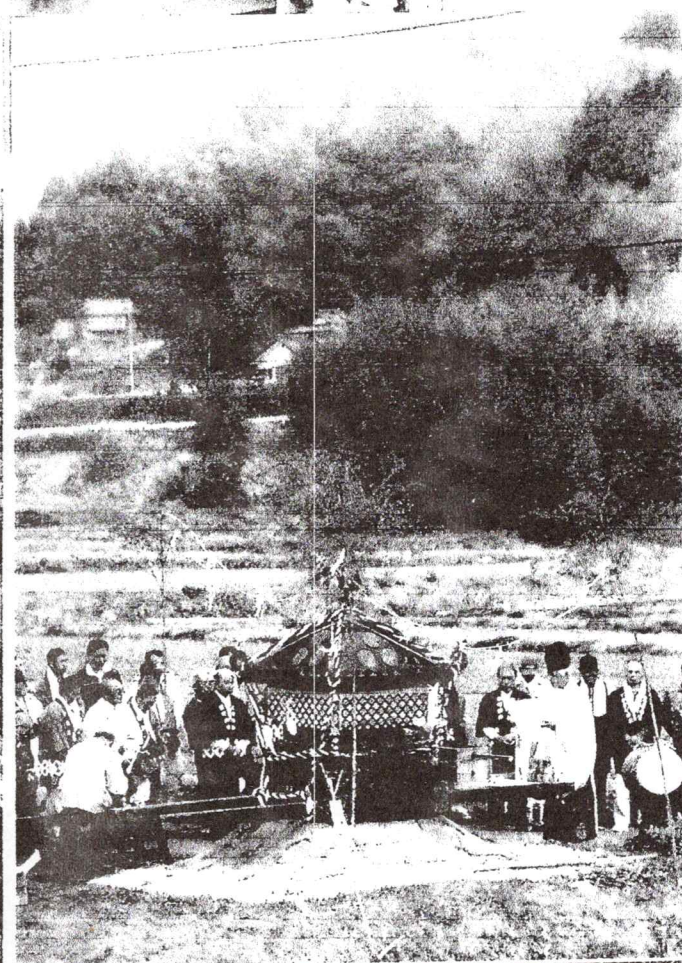
平成27年4月出社

(AM 9:00~PM4:00)

ご出社前の神事



氏子区内へ
御旅所へと御出社



中染大越地区での神事あり

最後の御旅所
滝地区へと向う
(永久橋)



5-②. 曾目城 (中染町・遠山)

常陸太田北消防署の南側の標高159m、比高100mの山にあり、「林ノ下城」ともいう。
西側は山田川が、南側と東側は染川が天然の堀となる。

山の四つのピークに曲輪を置き、直径約300mの範囲が城域、遺構は完存である。東側の曲輪が最も広く主郭であり、西側の尾根ピークに3つの曲輪が並ぶ。遺構の規模は小さい。

この地は、4方向に街道が分岐する交通の要塞であり、街道監視及び山入城の北を守る支城として山入氏により築かれたものと思われる。

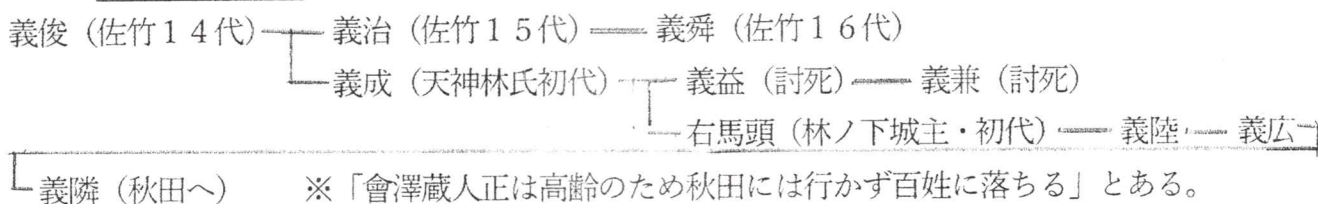
山入氏滅亡後、天神林義成、義益親子が入るが、拡張整備された感じはない。

文禄年間、中染678石は佐竹義宣の蔵入地となったため、天神林義成は他地に知行を与えられたという。この頃、あるいはそれ以前には廃城になっていたのではないだろうか。

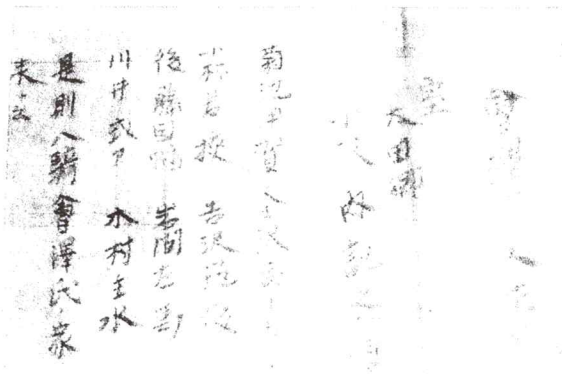
平時の居館は熊野神社南側の遠山集落にあったと思われる。

(参考) 地元、會澤家系図によると、当時、慶長年中染邑(遠山)に佐竹の家臣で會澤蔵人正が居住し、家来8騎を擁していたとの記録が残っている。

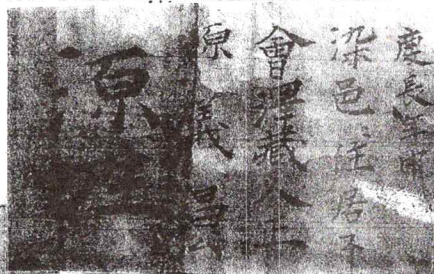
天神林氏略系圖



會澤藏人正号



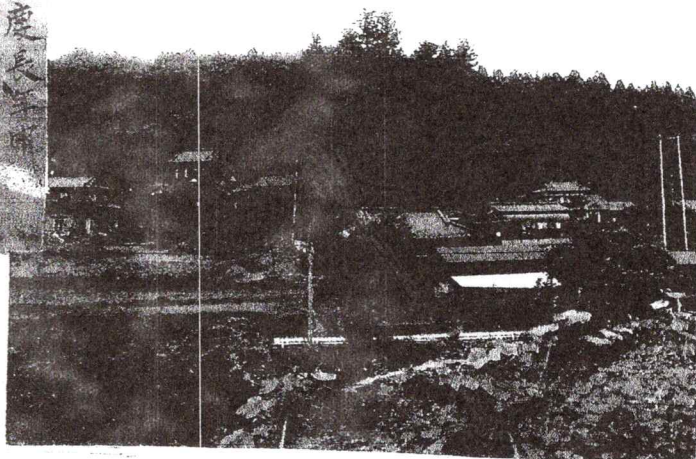
系圖寫 →



會澤氏家来八駟とある



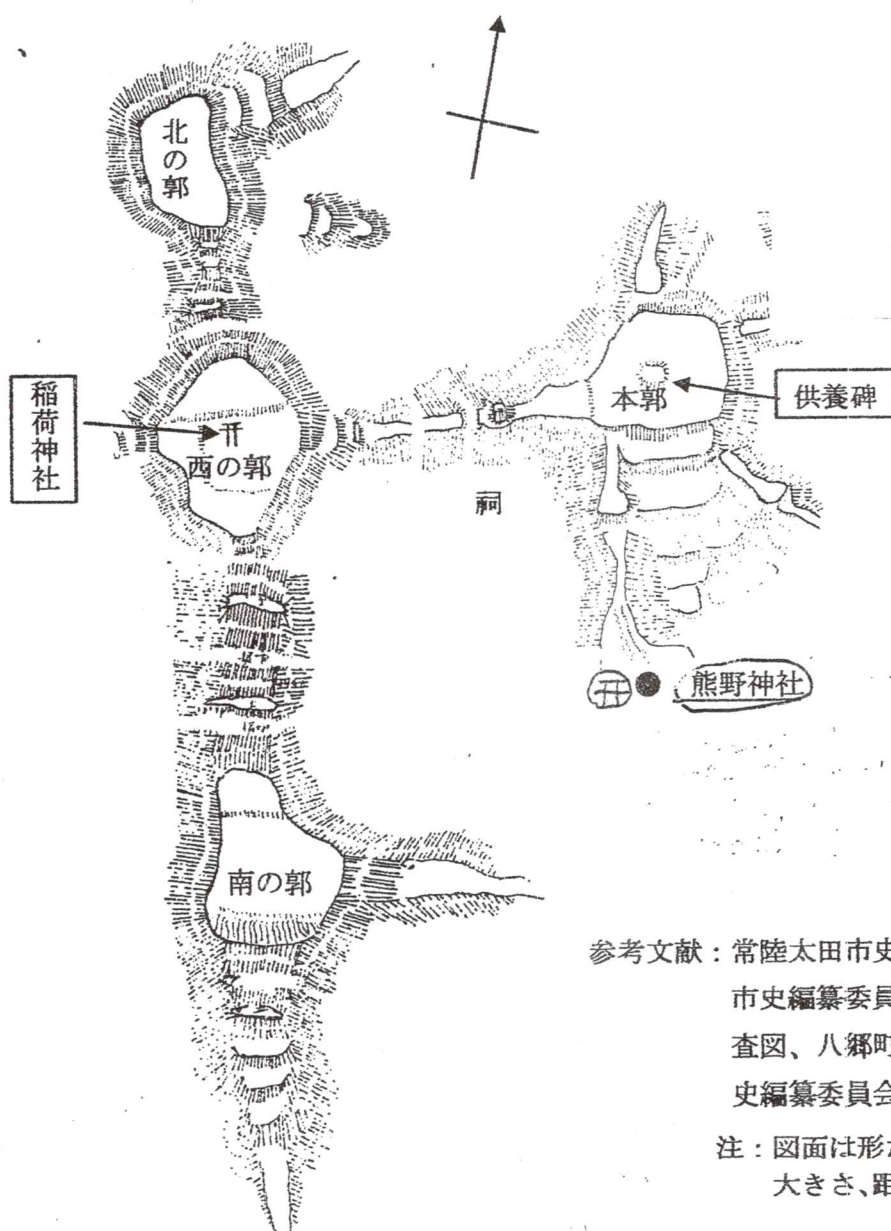
熊野神社（旗柱）
から曾目城を望む
（遠山地区）



一説には、文禄4年(1595)中染674石は佐竹義宣の蔵入地にされ、小貫頼久が預かり、天神林義隣は、他の土地で50石の知行を宛がわれているので、文禄年間に廃城に成ったものと言われている。

慶長年中、曾目村は遠山(林ノ下城麓)に、佐竹の家臣で會澤蔵人正が、家臣8騎を擁していたとの記録が會澤系図に残っている。

林ノ下城(曾目城)跡概念図



参考文献：常陸太田市史・水府村史・佐竹系譜(常陸太田市史編纂委員会)・水府村埋蔵文化財包蔵地調査図、八郷町史・佐竹氏関連城館(常陸太田市史編纂委員会)

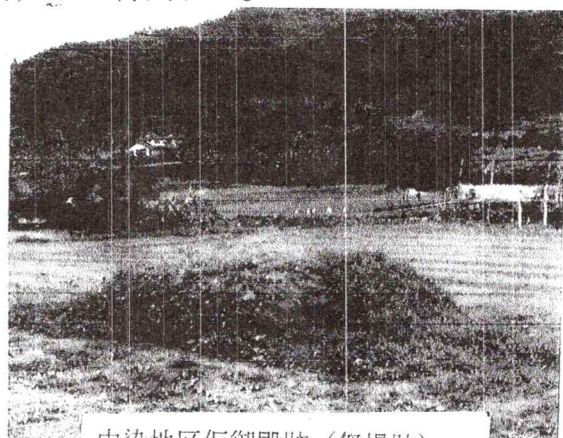
注：図面は形だけを主として作図
大きさ、距離は定かではない(梶山義光作図)

6. 中染地区祭場跡（仮御殿） （中染町・横川）

東・西金砂神社は、第51代平城天皇の御世の大同元年（806）。宝珠上人によって開かれ、大祭礼は、水木浜の海水をもつてご神体を浄め神の心を慰め、五穀豊穰^{ごこくほうじょう}を祈り、民心の安定と社会の平を目的とし、第55代文徳天皇仁寿元年（851）に始まり、73年目毎に举行され、平成15年に17回が執行された。また 小祭礼は、第52代嵯峨天皇の弘仁6年（815）に始められ、平成27年199回を数えている。

祭礼は各所で神事・田楽を舞い、大祭礼は東・西金砂神社とも、水木浜まで渡御し、小祭礼は西金砂神社のみで、馬場村（常陸太田市馬場町）まで行列する。

中染地区の田楽舞が、行われたのは、保延5年（1139）の第5回からで、昔は花木山^{かほくさん}（北側の山）にて田楽を行っていた。当初は佐竹18騎で拝していたが、その後、36騎に増えて狭くなり、現在地に移った。（加藤寛斎・常陸国北郡里数の記）



中染地区仮御殿跡（祭場跡）

写真中央の凸面は神輿安置場

中染地区の祭場跡と神輿安置塚は、小祭礼4日間にわたり全て関与し、祭が終了する間、宮本地区の大世話人並びに神官の宿舎及び神輿の警護等に携わる地理的、歴史的にも祭礼の中心をなすものである。

中染祭場跡は、仮御殿と呼ばれ、神事・田楽舞を行い面積は、1,320㎡（400坪）あり、神輿安置塚の上部は畳2帖・下部は畳4帖、面積にして7.5㎡あるという。

又、仮御殿作りは、小祭礼前に2日間掛け延べ300人の住民などが集り、神輿を安置する仮殿を建て、しめ竹と呼ばれる祭場を囲む神具、田楽場の舞台などが造られる。

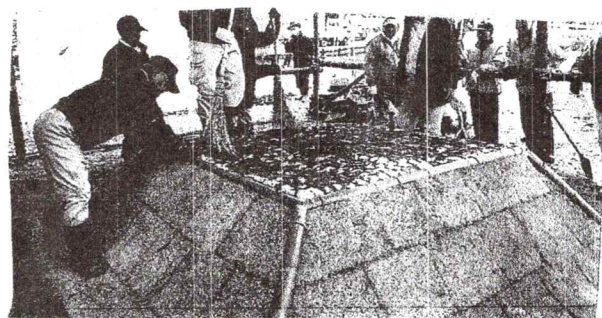
しめ竹は、地元の山林で採取された高さ30m、根元の円周が約40cm、根が付いたままの竹を祭場（約50m四方）の四隅に立てしめ縄で結ぶ。

神輿を安置する仮殿（横約20m、奥行約20m、高さ5m）は、同地区から集めた杉・桧・竹などで造られたと言う。

参考文献：・水府村史（水府村教育委員会）

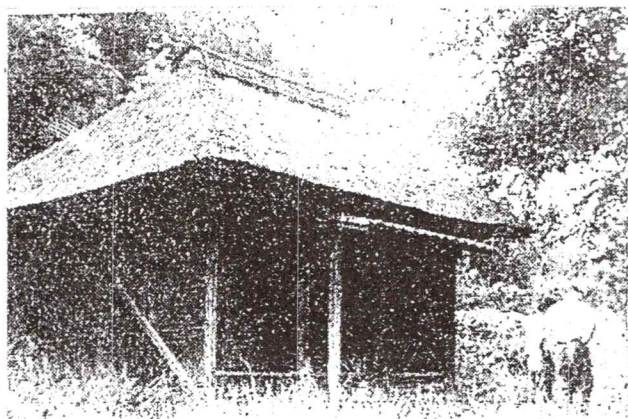
- ・金砂大祭礼の歴史（志田諄一著）
- ・中染地区仮御殿（祭場跡）と西金砂小祭礼との係わり

化粧直し ⇒

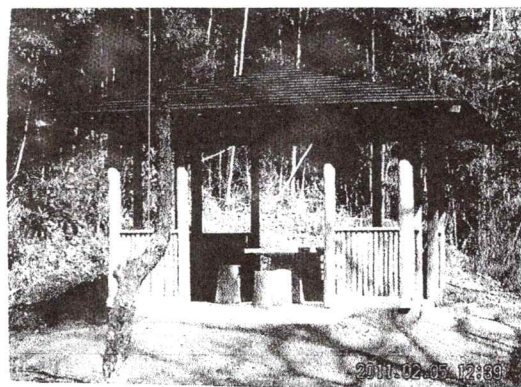


仮殿の中に神輿を安置する台

7-①、阿弥陀堂跡 (中染町・横川)



阿弥陀堂（わら葺）



東屋（休憩場所）

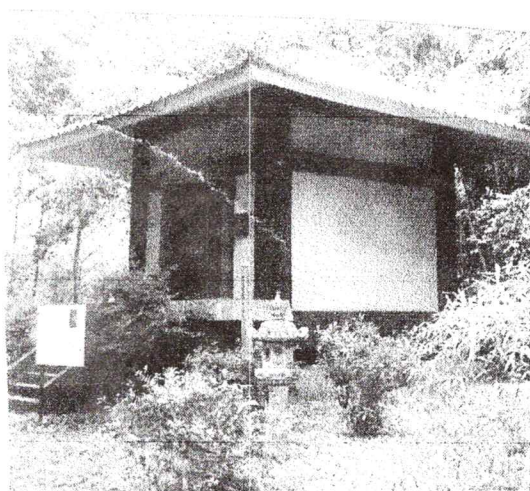
この地に、阿弥陀如来を本尊とする東金砂山末寺阿弥陀院東清寺があった。元治元年（1894）天狗諸生の乱で、同所にあった鉄仏阿弥陀如来立像は、持宝院とともに焼失した際に地元民が小堂（わら葺）を建てて本尊を安置した。

その後、昭和44年3月30日 県指定の重要文化財に指定された。これを機会に地元（中染）氏子によって、昭和47年3月31日 本仏像の格納庫が建立され、ここに移り、安置され現在に至っている。元のわら葺の小堂は不審火で焼失し、今は休憩所として東屋が建てられた。（2011. 2）



阿弥陀堂（わら葺）の鉄仏

⇐ 当時、鉄仏は床が抜けて
足首が土に埋まっていた
ため腐食がひどい。



現在の阿弥陀堂

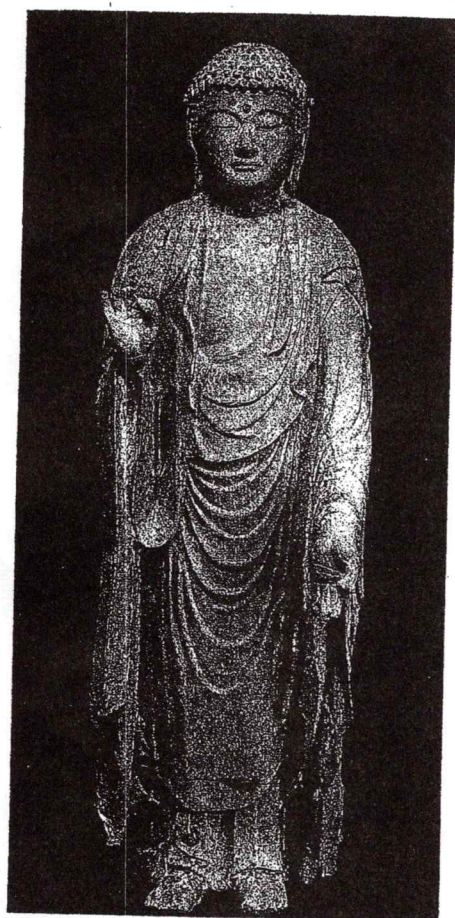
参考文献：水府村史

7-②. 国指定重要文化財

鉄造阿弥陀如来立像 (中染町・横川)

鎌倉時代 弘長4年(1264)年造

平成26年8月21日 指定



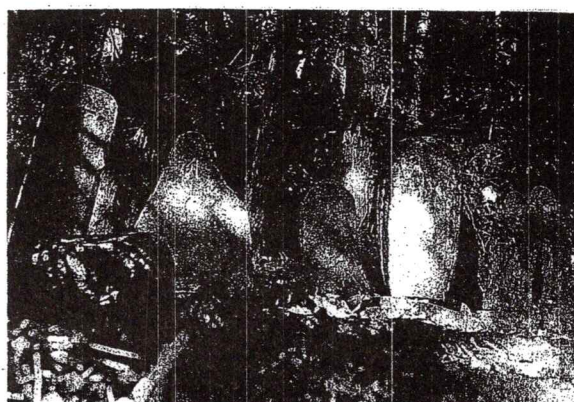
阿弥陀如来立像 水府村 阿弥陀堂

阿弥陀如来は僧高^{そうこう}164.2cmの等身像の鉄仏で、技術的難易度が高い鉄による鑄造をおこなうため、細部表現が簡略化され、頭部の螺髪は大きく、衣文も形式化が見られますが、その温かみのある穏やか表情と凛とした姿勢が美しい像です。

鉄仏は鎌倉時代を中心に造られ、関東地方と愛知県に偏って分布しており、その数は少なく、非常に貴重な仏像です。

本像の背面には、大檀那(筆頭寄進者)桐原左衛門、大大工(筆頭鑄工)権守入道西念、大勧進(寄進取りまとめ役)僧立佛房、大佛師(原型製作者)日向房良覚らの名と、弘長4年(1264)4月26日の日付を記す銘文が刻まれています。これらの人々の事績は知られていませんが、桐原左衛門は佐竹氏家臣とみられます。念心・西念といった法名は、一時常陸国に滞在し、佐竹氏とも親交のあった「親鸞」を中心とした浄土教団とのつながりを連想させ、当時常陸国において広く信仰されていた浄土宗の影響下において本像が造像された可能性は非常に高いと考えられます。

なお、背銘にみる「法然寺」については現在までのところ不明ですが、古文書によれば、中染にはかつて「花木山勝養院」という寺院があったとされ、その寺号が「法然寺」であった可能性があります。また、常陸太田市内には同名の浄土宗寺院・法然寺(1337年創建)があり、佐竹一族の「永慶蓮勝」開基とされるところからも、両者になんらかの関連があったとも考えられます。



勝養院法念寺石塔

また、東茨城郡大洗町大貫町西光院の本尊・木造阿弥陀如来立像は、中染阿弥陀堂の鉄造を
鑄造するにあたり造られた原型であることが明らかとなっています。原型と鑄造品がともに残
る例は全国でも数点ありますが、その中で製作年代が判るのは本像のみであり、また、仏師
の名が背銘に記されたことは、原型像の制作が本像の造像過程で重要な意味を持っていたと考
えられます。

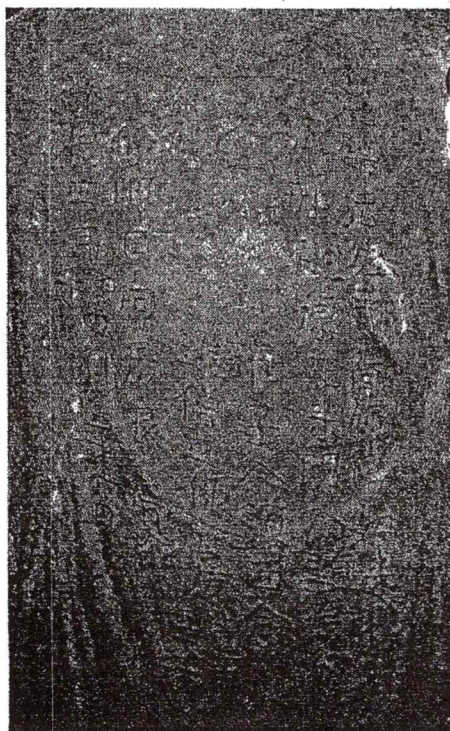
造像の弘長4年(1264)の佐竹氏は常陸介に任じられた7代長義の代にあたり、朝廷・鎌倉
幕府のいずれにおいても自らの地位を確立できた時代でもあります。

実際には、弘長4年(1264)2月28日に改元が行われており、正しくは新年号の文永元
年4月26日とすべきところ、なんらかの理由で先に刻まれており、すでに修正ができない
状況であったため、旧年号そのまま記されてしまったものと考えられます。という事は日付
については、何か大きな意味があったことが伺われます。

関連する資料がほとんど失われてしまっているため、本像にまつわる多くのことが謎のま
まとなっていますが、その姿形、背銘などは鎌倉時代後半の常陸国における仏教と、我が国
の仏教美術の変遷を知る上で、極めて重要な位置を占めるとされることから、平成26年8
月20日、国指定重要文化財への指定がなされました。

茨城県内における仏教の国指定は92年ぶり。常陸太田市内においては^{しもとしかず}下利員町西光寺の
木造薬師如来坐像以来、実に103年ぶりとなります。

鉄造阿弥陀如来立像背銘



奉治鑄法然寺阿弥陀如来像
大檀那桐原左衛門入道念心
大大工権守入道西念
大勸進僧立佛房
大佛師日向房良覚
弘長四年四月二十六日

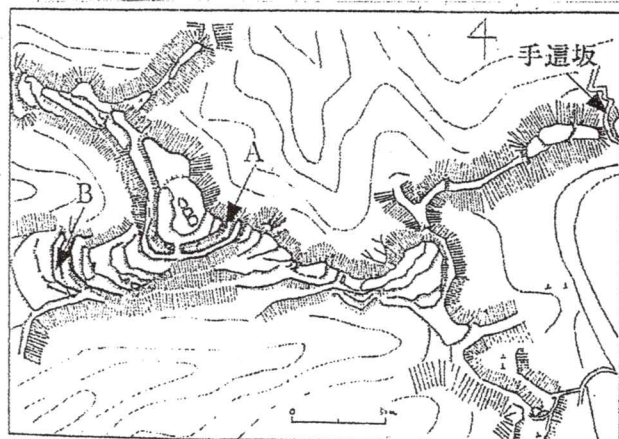
8. 不動明王の滝 (中染町・滝平)

不動明王とは、五大明王、八大明王の一つ。仏典では最初 大日如来の使者として登場して、やがて大日如来が教化し難い衆生を救うために忿怒の姿を仮に現わしたものである。普通 一面二臂で右手に降魔の剣をもち、左手に羂索を持って。地元滝平地区の人たち10余名程で「講」をつくり、例年旧暦8月27日を縁日として祭りを行っていた。同じ石仏が一か所に7体程まとまって奉ってあるのは珍しい。現在は「講」は行っていない。又、この滝の水は、中染要害山(餓鬼山) <城郭遺跡がある>より流れ出ており、絶えることがない滝である。



9. 中染 要害 (中染町・釜の上)

水府海洋センター南側に切り立った標高191m、比高100mの山が見える。屏風山、要害山、餓鬼山と呼ばれ、山中に横堀を伴う城郭遺跡が残る。単郭式で、城Aは主郭側で約5m、南側で約2mの深さがある。この堀の北側が帯曲輪になる。主郭の西側には帯曲輪群があり、その先には横堀Bがあり、防御上有利である。築城時期は不明であるが、曾目城の支城と推定され、15世紀に麓で行われた合戦に係わった可能性はある。山入の乱後、滑川氏がこの山を所領として貰っていて、今の姿は滑川氏によって整備されたものであろう。滑川氏は佐竹東家の家臣として依上、南郷で活躍し、戦国時代、「染衆」の終結地とも考えられている。天正18年(1590)頃には廃城になったと思われるが、本郭南東の平場は中世金砂山神社の田楽場と伝えられ、江戸時代のある時期まで宗教的な儀式を行っていた可能性がある。城東側の道は手這坂といわれ、古代の官道と推定され、城となんらかの関連があったと思われる。



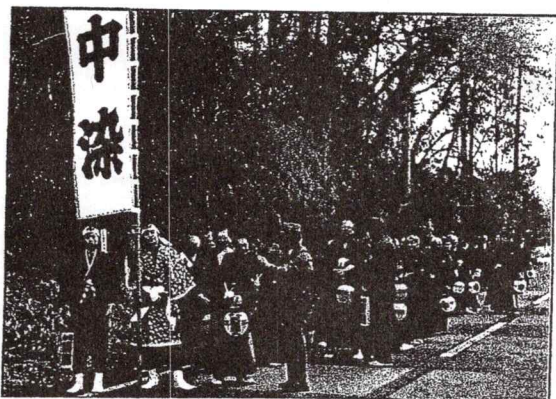
中染要害山城縄張図(作図:五十嵐雄大2010年1月、2015年2月調査、2016年10月9日作成、作図協力:高橋宏和)

10. 永久橋 ^{ななどはん} <七度半> (中染町・天下野町)

小祭礼に於いて、中染地区と天下野町地区の境界にある永久橋（昭和10年7竣工）の中央で中染地区に引き渡され「七度半」と名付けられた儀式が執り行われる。

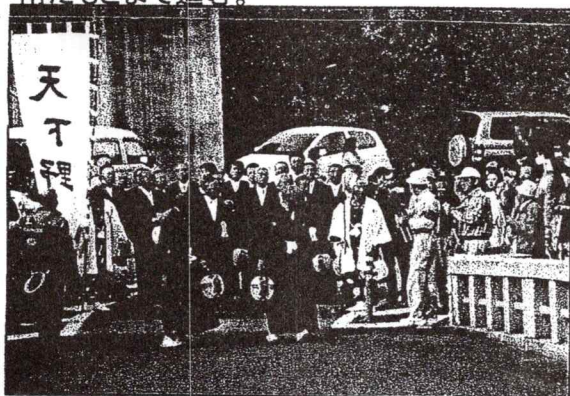
<七度半>中染：（橋中央へ）天下野世話人に申し上げます。前例に基づき中染大世話人・世話人一同村境（橋中央）まで迎えに参りました。速やかに神輿並びに行列の方々を引き渡して下さい。

①



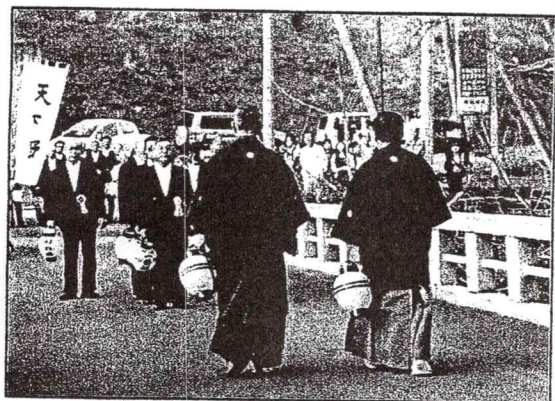
中染大世話人・世話人永久橋の南側に到着天下野が北側に到着したのを見計らい、橋の南たもとまで進む。

③



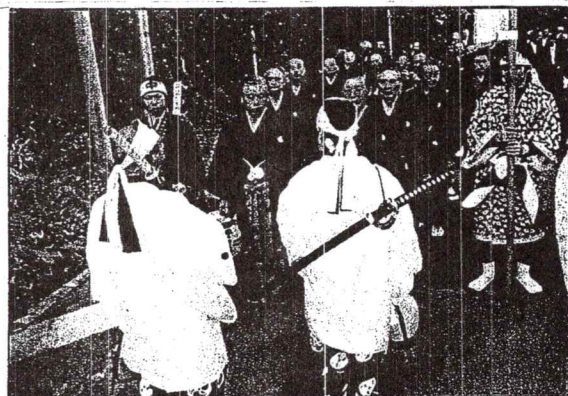
中染から大世話人2名で、行列引き受けの挨拶して来る。

⑤



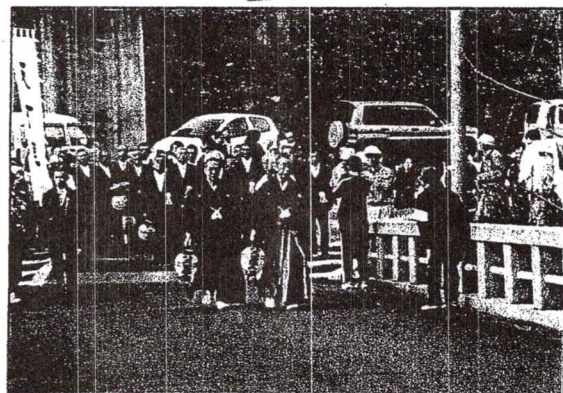
何度か引き受けの交渉をする。

②



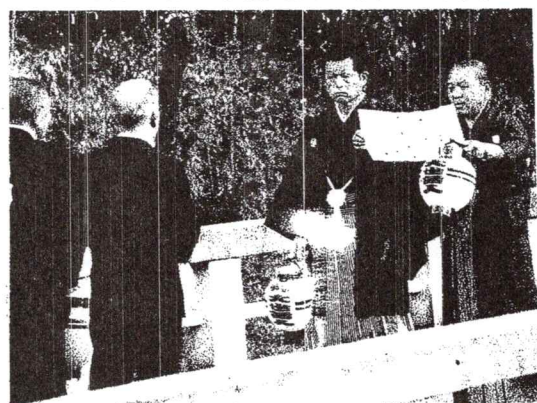
天下野からの使者が来る、到着の連絡の旨。

④



中染から大世話人2名で、本日の祭典祝いと、到着お礼の挨拶をして戻ってくる。

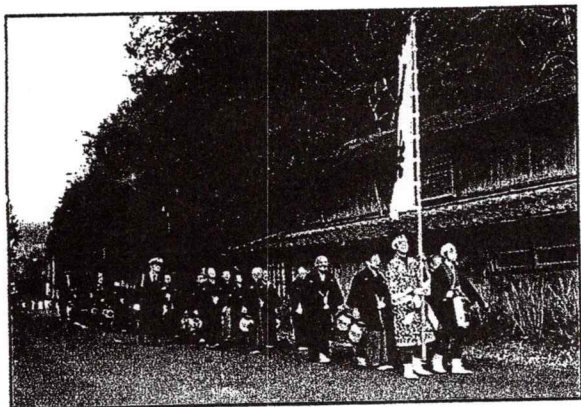
⑥



最後に代表、副大世話人が行き交渉の成立、戻って来て大世話人、世話人全員で橋北側に行き天下野、宮本に引受の旨挨拶して行列を率いてくる。

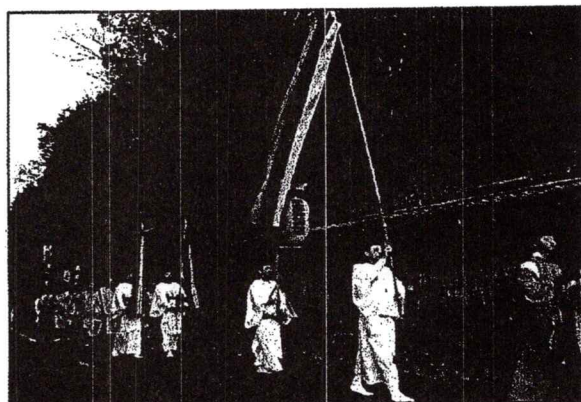
(七度半)

⑦



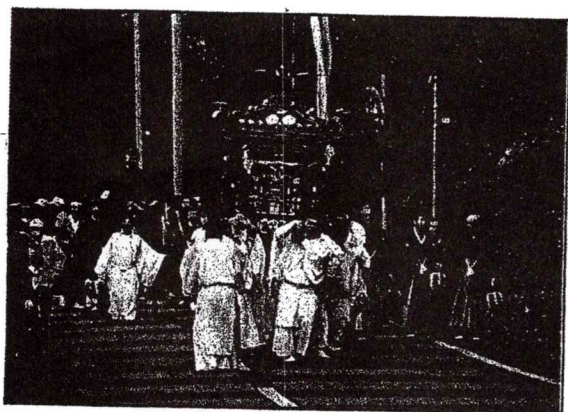
永久橋より西金砂神社(宮本)の行列を案内して祭場に向かう。

⑧



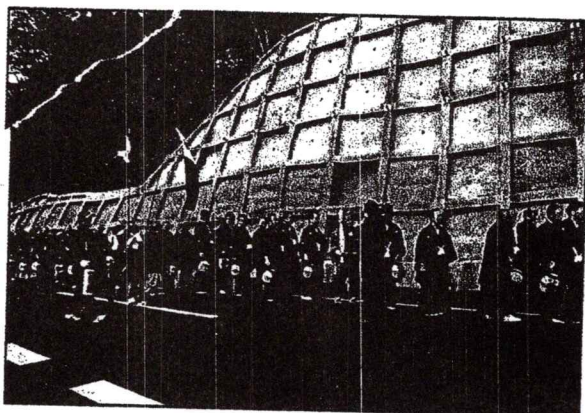
(金砂) 宮本の行列

⑨



御神体(御輿)はお仮殿へと進む。

⑩



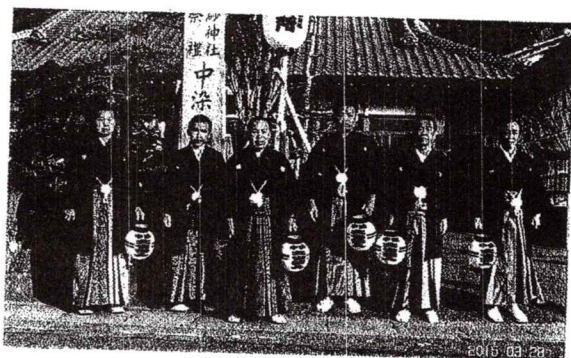
旗持ち、飛脚、中染大世話人6人・町田飛脚
大世話人11人と旗持ち子供2人・中染世話人・
宮本の順で案内する。

⑪



列は崩さずに御神体(御輿)はお仮段へと
進み、鎮座する。

⑫



最後に、御神体(神輿)が無事にお仮座に
鎮座できたことを、大世話人一同が確認
して、第一日目を終了する。

11. 信田小太郎の墓 (中染町・西足)

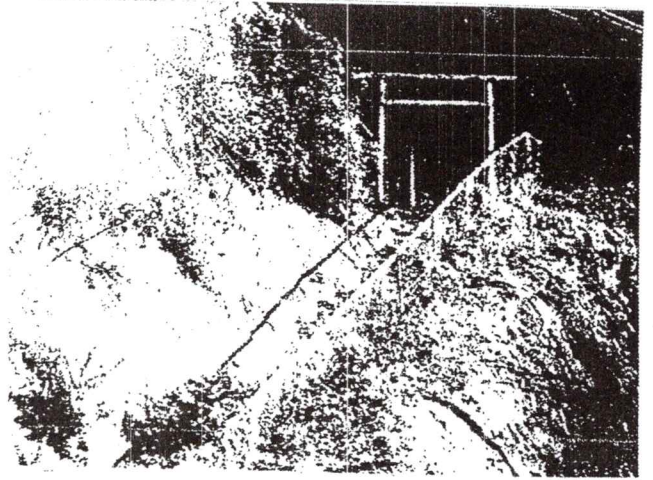
小太郎は堅割山・東金砂山へ登山し佩刀^{はいとう}を納め、毎年正月3日護摩修行の時、太刀を出して火を当てていたと地元の人が伝えている。(加藤寛斎 資料)

延徳4年(1492)3月10日、小田部の合戦の際、誤って馬を深みに乗り入れ動けなくなってしまった。

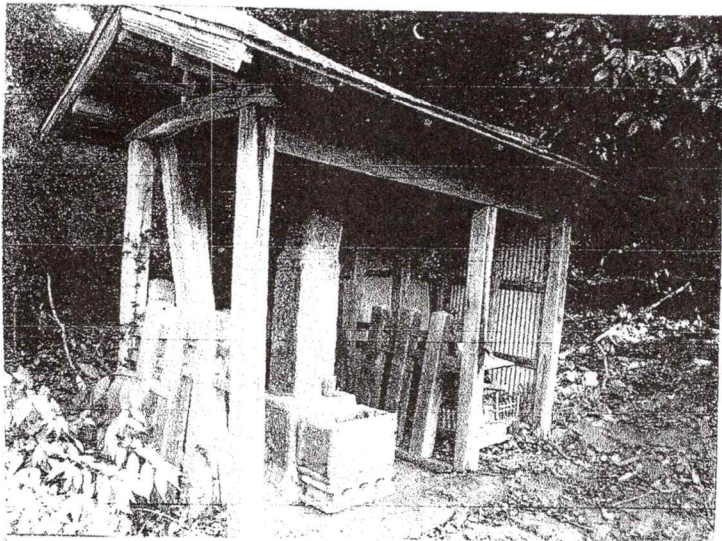
ようやく馬を助け山田川の中流まで乗り入れたが、折からの洪水の増水で深みにはまって溺れてしまい、死体は下流の中染の西足に打ち上げられた。

村人達は是を哀れみ、その遺骸を山の麓に葬って墓標を建て供養した。(墓石と祠がある)

小太郎の溺れた場所を今でも「信田ヶ淵^{したがふち}」と呼んでいる。



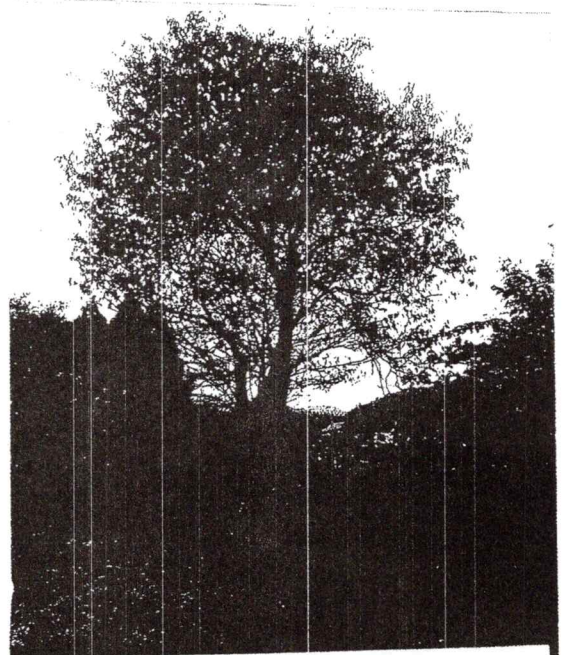
信田小太郎の墓への参道



信田小太郎の墓石

又、この時小太郎の投げ捨てた桜の鞭が、逆さまに田に突き刺さり、そのまま根付ずいて成長したと言い伝えられている。

場所は、天下野一区である。



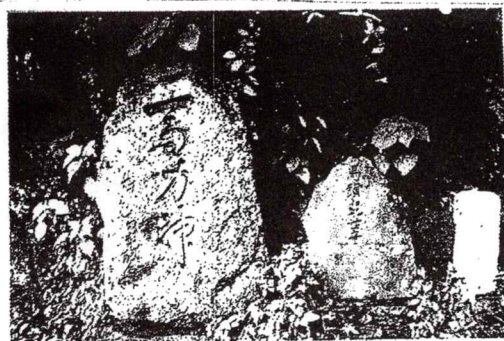
逆さ桜(信田小太郎のムチが根付)

参考文献：水府村史

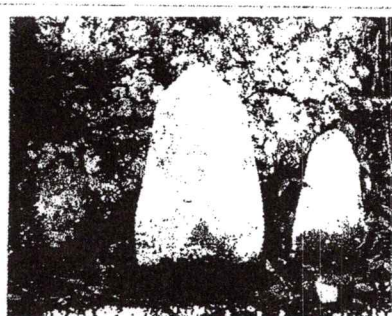
1 2. 馬力神 (中染地区)

六観音の一つ六冠に、馬の頭をいただき、3つの顔を持つ。馬頭は一切の魔を打ち伏せるという馬頭明王。馬頭観世音とも呼ばれ馬の守護神として知られている仏様。他にも馬頭明王と呼ばれる事もある。馬が草を食べるように、人々の煩惱を食べつくし、災難を取り除いてくれると言われている。

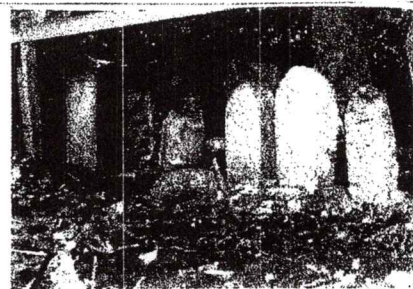
当時は、もっぱら農作業(馬耕)に使われていた。馬は明治に入ると運送業者や乗合馬車の引馬。競走馬・軍馬として人々の生活の中に入り込むようになった。当地区にも馬の利用者は多く天下野街道(現県道33号)沿いには当時運送業者(馬車業)が多くいた。それらの人たちの為か、旧町田「宿」には伝馬屋(所)と呼ばれる場所があった。(伝馬所は江戸時代から民間の輸送にかかわっていた)従ってこの地区の「辻」には数多くの馬力神碑(9ヶ所)が残っている。○数字は案内図と同じ番号です。



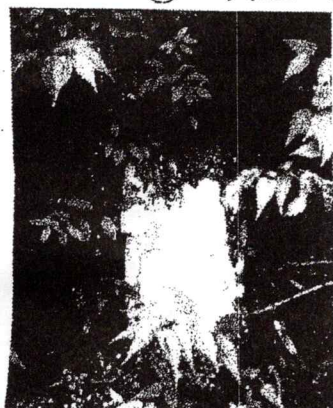
⑨ 吹上



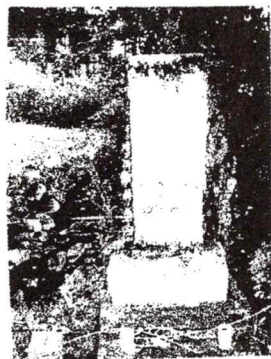
① 新堀



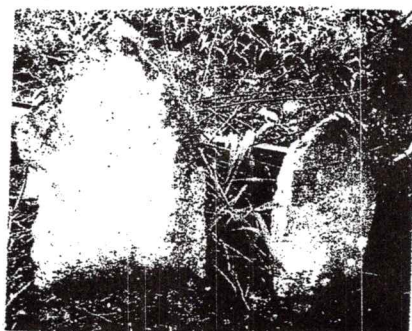
② 堀米



③ 風呂前

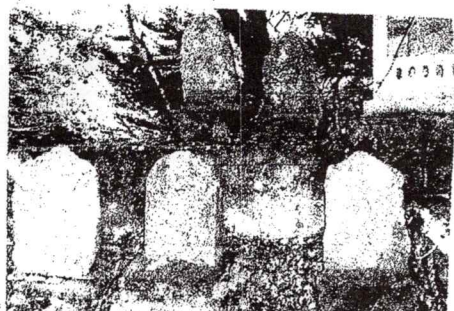


④ 風呂

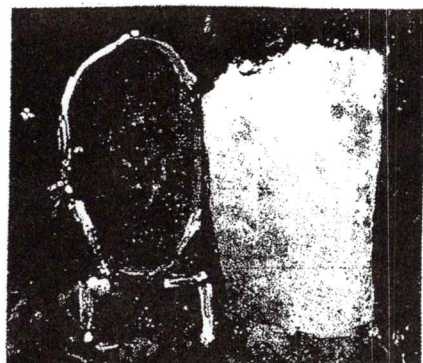


⑤ 前田 (百万遍供養碑あり)

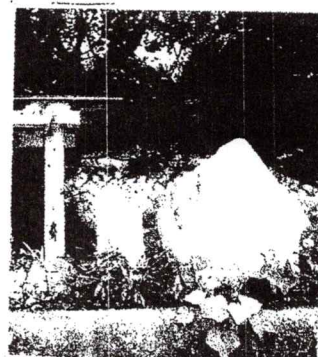
中染地区の
馬力観音群
(馬頭観音)



⑥ 辻



⑦ 滝



⑧ 境畑